**小山　正孝 （おやま・まさたか）**

**１、プロフィール**

詩人。「山の樹」、「阿房」同人。「四季」で編集実務を担当。「胡桃」、「文學館」創刊同人。第八詩集『十二月感泣集』で第七回丸山薫賞受賞。四季派学会理事。

＜生没＞

1916（大正５）年６月29日～2002（平成14）年12月13日

＜代表作＞

詩集『雪つぶて』、『逃げ水』、『愛しあふ男女』、『風毛と雨血』、『山居乱信』、『十二月感泣集』等

＜青森との関わり＞

昭和11年４月、府立四中より弘前高校文科乙類に進み北冥寮生活後、紙漉町に下宿。小山内時雄と文芸部で活躍。

**２、作家解説**

大正５年６月29日、東京青山に生まれる。

昭和11年４月、府立四中から弘前高校文科乙類に進む。文芸部で活躍し、校友会誌に毎回小説を発表。

13年７月、弘前から帰省中、杉浦明平から立原道造を紹介される。10月、弘前から盛岡〈生々洞〉に滞在中の立原を訪ねる。

14年４月、東京帝国大学文学部支那文学科に入学。16年12月、繰り上げ卒業。卒業論文は「魯迅」である。

日本文学研究所所員となる。17年８月、日本出版文化協会に入社。18年４月、日本出版会に入社。

20年４月、召集されるが、健康上の理由で除隊。

10月、文明社に入社。42年７月、中央公論社嘱託。43年、関東短期大学講師。44年４月、助教授。53年４月、教授。62年３月定年退職。

　昭和14年９月、中村真一郎・村次郎等の「山の樹」同人。11月、山崎剛太郎等の「阿房」同人。17年９月、「四季」の編集実務を担当。21年７月、「胡桃」創刊。42年12月、「四季」（第四次）同人。58年１月、「文學館」創刊同人。

昭和16年の『立原道造全集』（山本書店）、32年の『立原道造全集』（角川書店）、42年の『立原道造全集』（弥生書房）、46年の『立原道造全集』（角川書店）、49年の『津村信夫全集』（角川書店）を編集。44・58年に『杜甫』（平凡社）を共訳。

詩集は昭和21年６月に『雪つぶて』（赤坂書店）、30年11月に『逃げ水』（ユリイカ）、32年４月に『愛しあふ男女』（ユリイカ）、43年４月に『散ル木の葉』（思潮社）、46年５月に『山の奥』（潮流社）、52年７月に『風毛と雨血』（思潮社）、61年５月に『山居乱信』（潮流社）、平成３年６月に『小山正孝詩集』（思潮社）、11年８月に『十二月感泣集』（潮流社）第七回丸山薫賞受賞がある。

四季派学会理事。平成13年６月、日本現代詩人会より「先達詩人の顕彰」を受ける。

14年12月、肺炎で関東労災病院にて死去。16年６月、創作集『感泣旅行覚え書』め12月に『詩人薄命』が潮流社から坂口昌明（詩人・評論家）編集で刊行される。

**３、資料紹介**

〇『雪つぶて』

図書

1946（昭和21）年６月20日

180mm×　　　mm　（145ページ）

弘前高等学校の青春時代が基層にある作品28篇が収められている。赤坂書店で発行。〈雪〉とは津軽の雪であり、〈つぶて〉とは青年の反抗である。感情の詩であり、官能を肯定した詩である。裸の魂を表出している。抒情的であり、心理的である。